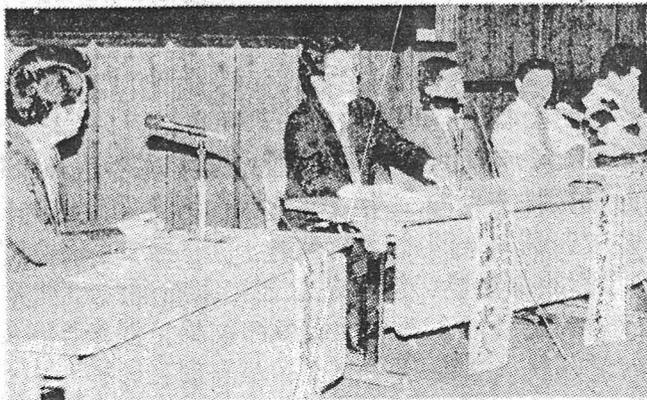


貧富の格差縮小を提言

国連NGOのAMD A（アジア医師連絡協議会、本部・岡山市）は二十八日、岡山市春選町二の岡山国際交流センターで、「貧困と健康」をテーマに「第一回AMD A国際フォーラム」を開催した。県内のNGO、自治体関係者らを中心に約百人が参加した。

今回のフォーラムは、来わせて開かれた。JICA年から五年間にわたり、AMD Aがアフリカのザンビアでプライマリー・ヘルスケア（初歩保健医療）プロジェクトを実施するのにあ

自治体関係者ら100人参加



川口部長（左から2人目）らが参加し行われたパネルディスカッション。活発な意見が交換された

フォーラムでは、川口雄次・WHO国際機関担当部長が基調講演。川口部長は、開発途上国では感染症の犠牲者が多いことや出生時死亡率が高いことなどを報告。背景には住民の貧困問題があると指摘した。住民の地域コミュニティを重視し、官民が協調して貧富の格差の縮小に取り組んでいくことが有効な問題解決の手段であると提言した。

パネルディスカッションも行われ、川口部長のほか、赤松志朗・JICA国際協力専門員▽ソムアツツ・ウオノコトオン・東京大学医学部国際地域保健学教室教授▽加藤憲一・南方圏交流センター代表が、パネリストとして出席。ディスカッションの中で、赤松専門員が、イスラム圏の国で実施されたNGOの地域開発の例を報告。宗教的問題から、男性と社会参加を求め女性と対立したことなどを述べ、地域に根ざした援助の難しさを指摘した。また、タイの僧りよがエイズホスピスを寺院で運営していることも報告され、宗教が地域の保健福祉に貢献している例もあげら

れた。
フォーラムは今後毎年一回のペースで五年間にわたって開かれる。菅波茂AMD A代表は「貧困と健康は密接な関係にある。WHO、NGO、JICA、自治体と連携して援助を実施していきたい」と話している。

「貧困と健康」テーマ

基調講演やパネル討論